

有田みかんの剪定枝を使ったリユースカップを共同開発

アサヒユアス株式会社と箕島高等学校、角川ドワンゴ学園N高等学校・S高等学校と共創

有田市ではこのたび、アサヒユアス株式会社と箕島高等学校、学校法人角川ドワンゴ学園が運営するN高等学校・S高等学校と共に、廃棄予定だった有田みかんの剪定枝を活用したリユースカップ「果樹園のタンブラー 有田みかん」を共同開発いたしました。このタンブラーは、箕島高等学校の生徒がデザインを手がけており、2025年日本国際博覧会（以下、大阪・関西万博）内の「関西パビリオン」多目的エリアにおいて、5月9日・10日の2日間、数量限定で販売されます。



<箕島高等学校デザイン>



<N高等学校・S高等学校デザイン>



<有田みかんの剪定枝>

「果樹園のタンブラー 有田みかん」は、有田市内でみかん栽培を営む農家から出る剪定枝（果樹の育成や管理のために剪定された枝の切りくず）を51%使用しています。箕島高等学校がデザインしたタンブラーは、有田みかんの断面に花や葉を添えた様子を細やかに描きました。N高等学校・S高等学校がデザインしたタンブラーは、有田みかんが実った樹木をポップなテイストで描きました。

本市は、450年以上にわたるみかん栽培の歴史を有していますが、これまで剪定されたみかんの枝の多くは焼却や粉碎処分されてきました。この現状を課題に感じ、アサヒユアスと連携し、剪定枝を活用した商品づくりに取り組みました。

商品名とデザインは箕島高等学校とN高等学校・S高等学校の生徒が考案しました。アサヒユアスは2024年10月に生徒を対象とした出前授業を開催し、SDGsや商品開発に関する講義やグループワークを実施。その後、生徒は“地域特産物である有田みかんの魅力とSDGs”をテーマに商品名やデザイン案を練り、本年3月に商品名とデザインが決定しました。箕島高等学校がデザインした「果樹園のタンブラー 有田みかん」は大阪・関西万博内の「関西パビリオン」多目的エリアにおいて、有田市と箕島高等学校が5月9日・10日に1500円（税込）で数量限定販売します。N高等学校・S高等学校がデザインした「果樹園のタンブラー 有田みかん」は、8月以降展開予定です。

本事業は、次世代を担う若者と共に地域課題の解決と持続可能な資源活用を目指す取り組みであり、本市では今後も、地域の特性を生かした共創プロジェクトを推進してまいります。

----- この件に関するお問い合わせ先 -----



〒649-0392 和歌山県有田市箕島50
有田市役所 経済建設部 有田みかん課
担当：酒井・中谷

TEL：0737-22-3635 Email：aridamikan@city.arida.lg.jp

